

平成22年7月の熱中症による救急搬送の状況

総務省消防庁では、平成22年7月の熱中症による全国の救急搬送の状況を取りまとめたので、その概要を公表します。

【資料】

[平成22年7月の熱中症による救急搬送状況](#)・・・消防庁ホームページに掲載します。



(連絡先)

消防庁救急企画室

担当：長谷川・伊藤・渡邊(俊)

電 話：03-5253-7529

FAX：03-5253-7539

平成22年7月の熱中症による救急搬送状況の概要

平成22年7月中の救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

1 背景

平成22年7月上旬は、梅雨前線が本州付近から本州の南に位置することが多く、全国的に曇りや雨の日が多くなりました。中旬になると、梅雨前線が本州付近から日本海まで北上し、東・西日本では記録的な大雨となりましたが、中旬の終わり頃からは太平洋高気圧が日本付近で強まったため、東日本以西では晴れの日が多くなり、東日本を中心に日最高気温35℃以上の猛暑日となるなど各地で厳しい暑さが続きました。このことから、7月中旬の終わりから下旬にかけて熱中症による救急搬送人員が急増したものと考えられます。

2 ポイント

- ・ 平成22年7月の全国における熱中症による救急搬送人員は17,750人でした。これは、平成21年7月の熱中症による救急搬送人員5,294人の3.35倍、平成20年7月の熱中症による搬送人員12,747人の1.4倍となっています。
- ・ 熱中症による救急搬送人員の年齢区分をみると、高齢者（65歳以上）が8,634人（48.6%）と最も多く、次いで成人（18歳以上65歳未満）6,835人（38.5%）、少年（7歳以上18歳未満）2,087人（11.8%）の順となっています。
- ・ 熱中症により搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く9,812人（55.3%）、次いで中等症6,538人（36.8%）、重症749人（4.2%）の順となっています。また、死亡も95人（0.5%）報告されています。初診時における死亡は、平成21年、平成20年と比べて、それぞれ0.3ポイント、0.2ポイント増加しています。
- ・ 都道府県別人口10万人当たりの熱中症搬送人員は、愛知県が最も多く23.0人であり、次いで群馬県22.9人、埼玉県21.0人となっています。

※ 軽 症：入院を必要としないもの
中等症：重症または軽症以外のもの
重 症：3週間の入院加療を必要とするもの以上
死 亡：医師の初診時に死亡が確認されたもの

3 その他

- ・ 熱中症を予防するには、暑さを避け、こまめに水分を補給し、急に暑くなる日には注意することなどが必要です。また、高齢者は温度に対する皮膚の感受性が低下し、暑さを自覚できにくくなるので、屋内においても熱中症になることがありますので注意が必要です。
- ・ 政府では、国民へ熱中症に対する注意を呼びかけるとともに、下記のHPで熱中症の情報を提供しています。

環境省熱中症情報 http://www.env.go.jp/chemi/heat_stroke/

注）「平成22年7月の熱中症による救急搬送状況（速報値）」から変更あり。